

くらし

◇ 知的・精神障害者も企業で事務職として働きたい。そんな思いに応え、職業訓練から就労までサポートする専門ビジネススクールが今春、東京都板橋区に開校した。18歳から40歳まで十数人の受講生が学んでおり、「全国のモデルになれば」と意気込んでいる。

◇ スクール名は「フェスティーナレンテ」。ラテン語でゆっくりに急ぐという意味だ。知的障害の娘を持つ佐藤悟社長が中心となり、出資者を集めて設立。東京都指定の就労移行支援事業所のため、無料または低料金で受講できる。朝礼に始まり、午前はビジ

事務職での就労を支援

「全国のモデルに」

さん(50)。障害者の長男(20)を育てた経験を生かし「夢だった息子の就職がなかったのはいろいろな人のおかげ。それをお返ししたい」と話す。11歳の自閉症の娘がいるパーソナルズ優美子さん(39)は訓練を担当。「ぜひやりたいと思った」と、パソコン講師の資格を生かしている。

パソコンは全員順調に習得しつつあり、課題は仕事をすすめる上でのコミュニケーション力をどう付けてもらうかだという。そのため、同じビル1階にある洋品店の社長や、社会保険労務士らを招き、実際の仕事について話を聞ける場を設ける試みも始めた。

ただ、知的・精神障害者の

知的・精神障害者の専門スクール開校

都内

ネスマナーが2コマ、午後はパソコン教室が3コマ。受講生はクールビズながらオフィス勤務と変わらない服装で、テキストなども普通の職業訓練校と同じ。違うのは、受講生のレベルに応じて、マンツーマンできめ細かくコーチする場面が多いことぐらいだ。

受講生の男性(19)は「事務の仕事がやりたいので、パソコンの使い方を教わりたかったです。仕事があるなら何でもやります」。やはり受講生の女性(18)は「就職したい気持ち有一段と強くなった」と言う。「(障害者でも)できるといふことをアピールしたい」と指導員を務める副島久美子



パソコン訓練は順調という
東京都板橋区のフェスティーナレンテ

雇用はなかなか広がっていないのも現実だ。施設長の高原浩さん(43)は「ハローワークと連携して就労先の開拓を始めた。就職後も定着支援を行ってフォローしていきたい」と話す。

開設には内閣府や日本政策金融公庫などの公的支援が不可欠だったが、「ノウハウさえ分かれば地方でも事業化は可能だ」と佐藤社長。

「政令指定都市ぐらいの人口規模があれば需要はある。細かい注意点なども蓄積しており、今後は同じような施設の設立支援もやりたい」と考えている。連絡先はフェスティーナレンテ03(5687)1095。